

⑧1 平成29年九州北部豪雨災害におけるTEC-FORCEの技術的支援活動、有明海での流木回収活動について

受賞機関 国土交通省 九州地方整備局 他11機関

キーワード 安全・安心の取り組み、国による被災自治体支援

全建賞審査委員会の評価ポイント

平成29年7月に発生した九州北部豪雨において、九州地方整備局をはじめ12の国関連機関からなるTEC-FORCE等を発災直後から被災した市町村へ派遣し、被災自治体技術的支援を実施したほか、豪雨により有明海に流出した大量の流木等を清掃船により回収した活動。

国土交通省各部署の総合力を発揮したものであり、早期の普及に成果を上げた点や、高い技術力により有明海の広域に大量に漂流する立木を迅速に回収したことが他地域の参考になる点が評価された。



小型無人機による調査

1. はじめに

平成29年7月に発生した九州北部豪雨においては、山腹崩壊やそれに伴う大量の土砂、流木が発生し、下流市街地部に流れ込み、甚大な被害が発生した。

九州地方整備局では、東北・関東・北陸・中部・近畿・中国・四国地方整備局、国土技術政策総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人土木研究所等の応援を受け、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）等を発災直後から、日最大237人、延べ約4,100人、福岡県、大分県をはじめ管内の被災した市町村へ派遣し、被災自治体技術的支援を実施した。

また、豪雨により有明海等に流出した大量の流木等を整備局所有の清掃船により回収した。



TEC-FORCE 集結状況

2. 事業の概要

TEC-FORCEの活動は、大量の流木と土砂により道路が寸断されている中、多くの困難もありながら、現場で様々な工夫をしながら実施した。

県・市町村所管施設の被災調査では、専門性を活かした被災箇所の状況、被災数量等その成果をとりまとめ、各首長へ報告した。

道路が寸断された箇所や、河道が埋塞した河川では、小型無人機（ドローン）での撮影画像を被災調査に活用し、迅速な調査を実施した。

道路啓開では、福岡県からの要請により、道路が寸断し孤立した地区への道路を集中的に迅速に復旧した。

専門家チームでは、大規模崩壊地での被災調査を行うとともに、二次災害防止、被災施設の復旧等に関する高度技術指導を行った。

国土地理院では、空中写真撮影等を行い、その成果を防災関係機関や自治体へ情報提供した。

独立行政法人水資源機構では、道路・河川・農業施設等の被災状況調査や土地改良区の緊急取水のためポンプ車を1台派遣した。

有明海や周防灘では大量の流木等が流出したため、九州地方整備局所有の調査観測兼清掃船3隻を投入し、約2,033㎡の漂流ごみ（うち流木2,690本）を回収した。また、災害協定団体や近隣漁業協同組合及び他地整の応援船とも連携して実施した。

3. 事業の成果

被災自治体への技術的支援活動は、福岡県からの要請による孤立地区への緊急車両通行のための県管理道路の道路啓開、自治体所管被災施設の調査等を実施し、被災地の早期復旧、二次災害防止対応に寄与した。

また、有明海等での流木等の回収では、航行する船舶の安全確保を支援し、二次災害防止に寄与した。

4. おわりに

平成20年4月にTEC-FORCEが設置され今年で10年を迎えたが、近年の災害の大規模化、激甚化を踏まえるとTEC-FORCE活動は益々重要性を増しているため、さらなる充実を図って参りたい。

最後に、今回の受賞は、全国からの派遣職員、派遣元の職場の皆様のご理解とご協力の賜物だと感謝申し上げたい。